

## 地域の健康増進に 誠心誠意尽くす 時代を見据えた先行投資が奏効

一般財団法人 北陸予防医学協会  
理事長

永田 義邦 氏



健康診断の実施機関として今年70周年を迎えられました。これまでの歩みを教えてください。

父の儀四郎が1949年に「永田レントゲン研究所」を開設したのがスタートです。父は学生時代に結核になり、医師になる夢を断念しました。その後レントゲン技師として総合病院に勤務していましたが、結核の死亡率が高かった戦後間もなく、自らレントゲン装置を

購入して、町の開業医のレントゲン撮影の請け負いを始めたのです。51年に結核予防法が成立すると、住民検診や学校、企業での集団検診が始まり、福井市から新潟県の高田市まで撮影に出かけるようになります。

経済成長期になると建設現場のじん肺や振動公害、産業現場の有機溶剤など新しい健康問題に対応した診断を、また胃のX線検査技

術が確立されると胃がん検診を始めるなど、社会変化に対応して検診を実施してきました。

1972年、労働安全衛生法の施行で健康診断が義務化されたのに伴い、医師や看護師の体制を整え、79年には「財団法人北陸予防医学協会」に改組しました。

現在、県内3カ所に拠点を構えています。

巡回検診だけでなく、多様化する健康診断のニーズに対応するため1987年、国道8号線に近く、医薬大にも近い富山市西二俣に健康診断専門の「健康管理センター」を建設しました。肺、胃といった部分ごとの検診だけでなく、人間ドックなど総合的な診断に対応できるように先端設備を整えました。

一方で、創業地の県西部の方への利便性を考え、2009年に高岡市金屋町に「高岡総合健診センター」を開設しました。内視鏡やCTなど最新機器を導入すると共に、婦人科検診を始め、女性だけの健診日「レディースデイ」も設定したところ、受診者が増加しました。

### 健康経営を手厚くサポート

昨年7月、富山市千代田町に「とやま健診プラザ」を開かれました。

近年、自立した生活ができる「健康寿命」が注目されるようになり、診断だけでなく、健康づくりに役立つ施設を目指しています。

3階は医師や保健師、管理栄養士などがサポートを行う「健康増進フロア」になっています。健診や人間ドックは定着してきましたが、その後の保健指導や生活改善指導をフォローする専門機関はこれまでありませんでした。ライブラリーやメンタルサポートセンターも設置し、専門スタッフが企業の健康経営をサポートします。

また高岡のレディースデイをさらに発展させ、いつでも女性が安心して受診できるように、2階の健診フロアは男女で完全に分けています。

1階には循環器内科クリニックを併設されています。

長く日本人の死亡原因上位は、ガン、心疾患、脳卒中となっております。中でも脳疾患は後遺症を伴うことが多く、社会負担も介護する家族の負担も増加しています。国は脳卒中の原因となる心疾患と合わせて対策をするため、「脳卒中・循環器病対策基本法」を昨年末に成立させ、予防や患者の社会復帰へ向けた取り組みを始めました。

クリニックは循環器疾患の予防・治療を専門に、MRIなど最新の医療機器を導入し、院長には県立中央病院で循環器内科部長を務めていた息子が就きました。協会と連携しながら、脳ドック、心臓ドック、さらに疾患予防のための生活習慣の改善指導に取り組んでいます。

時代のニーズを先取りして新サービスを投入されてこられました。スタッフの育成はどのようにされていますか。

検査項目が増えるたびに、医師、看護師、臨床検査技師など必要な人材が増え、拠点も増加して職員数も増えましたので、3ヵ月は他

の職員が付いて職場に馴染むようにサポートするようにしました。

また女性比率が75%と高いことが特徴的です。出産・育児の支援制度を充実させ、2015年にくるみん認定を受けました。巡回検診など変則的な勤務があるのでフレックス勤務の導入や賃金体系の見直しなど、働きやすい環境を整えました。経産省の「健康経営優良法人（ホワイト500）」には3年連続で選ばれています。

### 検査、予防から健康へと進化

今後はどのような事業展開をお考えですか。

2011年に富山市の「角川介護予防センター」が開設された当初から、指定管理者として運営に携わっています。高齢者の介護予防を目的として作られた施設で、家にこもりがちな高齢者の介護を軽減する、介護が必要とならないようにするためのプログラムを提供していますが、利用者同士が友達になってグループで出かけられたりして、より元気になっていらっしゃいます。現在は、メタボ健診などで保健指導を受けている人も40歳以上なら利用できるようになっています。

これまでは医療の支援機関として病人を見つけて早く病院へ送ることが仕事とと思っていましたが、未病を見つけて健康に戻すこと、

健康を維持することも重要になってきました。食や運動・休養など、県が推進するヘルスケア産業とも連携を図っていかねばならないと思っています。

「健康経営」という言葉は広まりましたが、管理職など責任のある立場について途端に倒れたという話をよく聞きます。定期健康診断では見つかりにくい、ガンや心臓、脳などのドックは一部の人が受けていないのが実情です。

経営者が社員の健康リスクを経営問題として考え、健康経営の意義が社員1人1人に浸透するよう啓発に取り組み、富山県が目指す「健康寿命日本一」の実現に向けて、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

座右の銘を教えてください。

論語の教え「仁・智・勇」です。立派な人格と深い智力をもって、勇気をもって決断・実行できることとありますが、私には難しく、どれも欠けています。ただ、目標をもって努力していると、職員など多くの人に助けて頂きました。協会の理念を「誠心誠意」としていますが、この教えに繋がります。職員1人1人が真心と正しい知識、技術をもって、健康に向き合いたいと思っています。

### 協会概要

一般財団法人 北陸予防医学協会

創 業：1949(昭和24)年7月  
所 在 地：高岡市金屋本町1番3号  
事業内容：健康診断及び検査、健康教育、健康指導・相談・助言、調査研究、介護予防施設運営  
職 員 数：235名(2019年9月現在)  
経常収益：22億8,200万円(2019年3月期)  
診 療 所：健康管理センター、高岡総合健診センター、とやま健診プラザ、千代田循環器内科クリニック  
関連施設：富山市角川介護予防センター(指定管理者業務)  
U R L：http://www.hokurikuyobou.or.jp/

### 略 歴

1938(昭和13)年塚原村(現射水市)生まれ。武蔵工業大(現東京都大)卒。東芝メディカルシステムズ(株)に勤務後、67年永田レントゲン研究所に入社。87年(株)永田メディカル社長、90年北陸予防医学協会理事長。



とやま健診プラザ3階の健康増進フロア